

高橋銀太郎著「手作り教材教具拝見、とことん講座で基礎学力アップ」

内外教育 2010年3月2日号 時事通信社刊を読む

手作り教材教具拝見 「とことん講座」で基礎学力アップ 富山県立富山北部高等学校

1. 富山県立富山北部高等学校(橋本芳夫校長、生徒数 474 人)では、英語と数学で小・中学校レベルから復習する、ドリル形式の教材を作成。2009年4月から1年生を対象に使用し、英・数を苦手とする生徒の理解を助けている。
2. 「とことん講座」と名付けられたこのドリル、英語は中学校で習う文法事項を 46 項目に分け、一からおさらいできるようになっている。項目ごとに 1 ページにまとめられ、例文を用いた解説でポイントをつかみ、和文英訳や選択問題、暗唱例文の書き写しなどで知識を固める構成。裏面には解答が印刷されており、生徒が自己採点できる仕組みになっている。
3. 朝礼前の 10 分間を「朝学習」と位置付けている同校では、この時間の教材としてドリルを活用。4 月から 1 日 1 ページのペースで始め、1 学期で一通りをこなした。生徒からは「例文入りの解説で分かりやすい」「長文読解でも役立つ」「例文を繰り返し書くことで覚えられる」と好評だ。

ドリル形式で小中レベルから復習

4. 取材当日は、授業でもドリルを活用。2 学期の中間、期末試験で正答率が低かった関係詞を復習した。教員が提示した日本語を口頭で英語に訳したり、全員で例文を暗唱したりするなどして基礎固めを行った。担当した菅田純一教諭は、「授業では文法をついおろそかにする傾向が先生の間にあるが、文法という基礎があってこそ、会話などコミュニケーション能力の向上にもつながる。また、その基礎力は、大学入試の成果にも結び付くだろう」と指摘。学習済みのプリントは一人一人がファイルにとじ込み、分からなくなったときの確認に活用されている。
5. 数学は、計算問題を中心に、1 項目 3、4 ページで構成。週 1 時間ある総合的な学習の時間の一部で活用され、1 時間に平均 4 ページ進めている。杉山明夫教諭は、高校生の計算力が年々落ちていることに危機感を持つ一人。「けた数が多くなると、きちんと計算できなくなってしまう。とにかく、とことん計算力を身につけさせたい」と、計算力強化の意義を語る。また、「時間をかけてじっくりと解かせれば出来が良いが、3 分、5 分と時間を制限すると極端に正答率が下がる。限られた時間で一つでも多く正確に計算する力を付けることは、大学入試センター試験の対策にもなる」と、2 年後の入試も視野に入れた指導をしている。

6 . この教材は、菅田、杉山両教諭がそれぞれの科目でとりまとめ役となり、およそ 1 年をかけて出来上がった。かつて「内外教育」に掲載されていた記事から、千葉県立姉崎高等学校で同様の取り組みをしていることを橋本校長が知っており、同校に協力を要請。両教諭が同校に出張して取り組みの説明を受け、教材の貸し出しなど協力を得た。

7 . 菅田教諭は「とことん講座を使ってみて、意外にも生徒が(英語の)受動態を苦手としていることが分かった」とし、「自分たちで作った教材だから、市販のものと違い、生徒がどこでつまづいているのか把握しやすい」と、手作り教材の強みを力説する。

P7

#### [コメント]

高校で新しい項目を完全にマスターしたければ、小学校・中学校で学ぶべきことを完全に身につけておいた方がよいことは誰でも気付くが、実際にやる人は皆無に近い。それではと、手作り教材で生徒の不足する部分を補うこの試みは高く評価される。基礎・基本の大切さを形にしていきたい。

- 2010 年 3 月 2 日 林明夫記 -